

イチゴの病害防除を徹底しましょう

～うどんこ病、炭疽病

イチゴ栽培では、保温を開始すると施設内が病原菌の増殖に適した環境になるため、**保温開始前の病害虫防除を徹底**してください。

防除が遅れになってしまうと、農薬を散布しても発生を抑えることが難しくなってしまいます。特に、炭疽病は一度発生すると薬剤による治療効果が期待できませんので、予防散布を心がけて防除を行ってください。



図1 果実に発生したうどんこ病



図2 茎に発生したうどんこ病

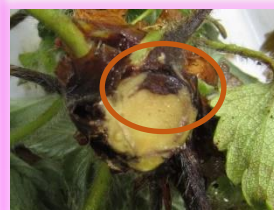


図3 炭疽病による
クラウン断面
(褐色の変色腐敗)



図4 炭疽病によるしおれ

(図 2.3.4 病虫害防除所)

防除のポイント

- 1) 初発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾および株元などを丁寧に観察し、発生を認めたら早期に薬剤防除を実施し、**葉裏や下葉、株元等にも薬液がよくかかるよう丁寧に散布すること**が特に重要です。
- 2) 古い下葉を除去した後や、発病株または罹病葉や葉柄、果梗、果実などを除去してから薬剤散布を行います。
- 3) ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響についてメーカーや関係機関の指導を受けるなど注意してください。
- 4) **連続して薬剤を使用すると、抵抗性や耐性菌の出現しやすい傾向がありますので、分類の異なる薬剤でローテーション散布してください。**
- 5) ハウス外張り被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能です。その際は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。



表1 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤

(令和6年10月8日現在)

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
アフエットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日	7
ジーファイン水和剤	750～1,000 倍	収穫前日まで / —	○	M01 と N C
トリフミン水和剤	3,000～5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	○	3
パンチョ T F 顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○	3 と U06
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日	9
モレスタン水和剤	3,000～4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	3 日	M10

注1) 各表の**ミツパチ※**は、ミツパチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針（令和6年版）より抜粋しました。○は薬液が乾けば影響なし、一は不明、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件により日数が前後することがあり、注意が必要です。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 イチゴ 炭疽病の主な防除薬剤

(令和6年10月8日現在)

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 ／ 使用回数	ミツバチ※	分類
ジマンダイセン水和剤	600 倍	仮植栽培期（収穫 7 6 日前まで）／ 6 回以内	○	M03
アントラコール顆粒水和剤	500 倍	仮植栽培期／ 6 回以内	1 日	M03
セイビアーフロアブル 2 0	1, 000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	○	12
デランフロアブル	1, 000 倍	育苗期／ 2 回以内	○	M09
ベルコートフロアブル	1, 000 倍	育苗期（定植前）／ 5 回以内	○	M07
オーソサイド水和剤 8 0	800 倍	収穫開始 1 4 日前まで／ 5 回以内	1 日	M04
キノンドーフロアブル	500～800 倍	育苗期／ 3 回以内	－	M01

※ 農業総合センター園芸研究所 平成 21 年度病虫研研究成果 「イチゴ炭疽病に対する防除効果と効果の持続期間」 より

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。